
激走戦隊カーレンジャー 一億総離婚！？その届けにブレーキを！

ブレードゼロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

激走戦隊カーレンジャー ― 一億総離婚！？その届けにブレーキを！

【Nコード】

N9405Y

【作者名】

ブレードゼロ

【あらすじ】

pixiv及びtinami（予定）との重複投稿。株式会社ベガサスの社長とその妻はボーゾックによって豆腐にされてしまい…
…？

「冬は鍋に限るなあ。」

バリバリアンの中では宇宙暴走族ボーゾックのならず者たちが鍋をつついていた。

「ほんと、目の前で火が燃えてるから心の中まであつたまるぜ。」

ガイナモに続いてグラッチが言う。

「そうだ、今回の作戦はこれで行くぞ！」

今までバリバリアンの中を覗き込んでいた宇宙の悪の支配者、暴走皇帝エグゾスが声を上げる。

「鍋え？」

「違う、今回はそこにあるそれだ！」

豆腐を指差す。

「ボーゾックの豆腐屋、^{ガリガリ}GGリーニー！お前だ！」

「俺の出番かリーニー！」

「よし！GGリーニーの成功を祝って乾杯！……と、バリッカーに乗って出撃するのに酒はまずいか。」

「何を言っている、そもそもお前たちは暴走族だろう。」

「モニターの前のみんなは酒を飲んだ奴に運転させるんじゃないぞ！」

グラッチがカメラ目線で言った。

「一億総離婚！？その届けにブレーキを！」

自動車会社ペガサスでは社員が鍋をつついていた。

「いやー、ボーゾックの奴らも今頃鍋食ったりしてな。」

「まあ、冬だしな。」

「あつ、お前ら、肉ばかり取りやがって!」

「まあまあ、社長、落ち着いて。」

「いや、こいつら、普段からサボってばかりのくせにこういうときにはいいものばかり取りやがって、許さん!」

鍋の中が空になる。

「じゃあお前ら、気をつけて帰るんだぞ。」

「ごちそうになったでございます!」

「ありがとうございましたー!」

次の日の朝、ペガサスの社長、天馬総一郎はG Gリーニに遭遇した。

「おはようございます。」

ただの気のいい宇宙人だと思った総一郎は挨拶を返そうと立ち止まったところで光線を浴びる。

「トーフ?トーフ、トーフ?」

瞬間、総一郎の体は四角くて真っ白くて弾力があり、崩れやすい…
…一口で言えば豆腐になっていた。

「社長、まだ来ないのかよ。」

「そういえば変ね。朝礼の時間にはいつも確実に来てるのに……。」

ペガサス社内にサイレンが鳴り響く。

「みんな、ボーゾック……」

ペガサス社内にふよふよと浮かぶ豆腐が入ってきたのはそのときのことだった。

「ヒヤヤッコ!ミソシルユドーフ、アブラアゲ!」

「社長でございますか!?」

「トウニユウヲ、アツメテニツメ、モガミガワ!」

「宇宙人に豆腐にされたんですか!?」

「ヌノニイレ、シボレバデキル、オカラカナ！」
「それで緊急事態だから今日は臨時休業ですか」

「ボーゾック発生だつぷ！」

社長が出て行ったところで改めてダップが出てくる。

「激走！アクセルチェンジャー！」

「トーフトーフトーフトーフーフ？」

天馬家で呆然とする市太郎のそばで浮かんでいるのは総一郎の妻の良江である。

「ふむ、ボーゾックのせいでお母さんが豆腐に……」

「ノキシタデコオラシヤデキルシミドーフ！」

「父ちゃんもやられたの！？」

「ヒヤヤッコ！トーフモショージュモダイズカラ！」

「市太郎君のお父さん、いきなり奥さんになんてことを！」

「ミソシルノミソモトーフモダイズナノ！」

「お母さんまで！お2人とも、落ち着いてください！」

「作戦は成功リーニー。」

「お前が2人を豆腐にしたボーゾックか！何が目的でこんなことを！」

「子供は夫婦にとってのかすがいいリーニー。でも、豆腐になれば「豆腐にかすがいい」の言葉通り、かすがいいかすがいとしての役目を果たさなくなるリーニー。」

そうしてやれば夫婦はすぐに離婚する！そうして市役所の窓口も混乱してクレーマーを増やすリーニー！ついでにチーキュはケンカだらけの星になるリーニー！」

「話は聞かせてもらったぜ！」

「カーレンジャー！」

「トーフダロ！トーフハトーフダクスレテロ！」

「トーフニモイッスンノムシニモゴブノタマシー！」

「ちょっとした言い争い程度で離婚するですって！？やめなさい、2人とも！」

人間も豆腐も宇宙から見れば小さくてもろいところは同じなのに！
むしろ本官のほうが白い分、豆腐に近い！

ボーゾック！チーキュの一般市民を豆腐にするぐらいなら本官を豆腐にしろ！」

「シグナルマンはチーキュ人じゃないリーニー。それに、単身赴任だからケンカする奥さんもないリーニー。」

「シグナルマンは二人をなだめててくれ！あのボーゾックは俺たちが倒す！」

ケンカに疲れたのか、口をきかなくなる2人。なだめるようにシグナルマンが言う。

「豆腐は煮ても簡単には色がつきません！豆腐の白は永遠の白なんです！豆腐のように、純粋な真っ白い心になって！」

「トーフ……」

「トーフ……」

どちらからともなく、寄り添いあう二人。豆腐の上の角が絡み合う。

住宅街で数々の夫婦を豆腐にしながらも、カーレンジャーとGGリーニーの戦いは続く。

そしてついにカーレンジャーの攻撃がGGリーニーを吹き飛ばす。

「ぐわあっ！このままじゃ勝てないリーニー！こうなったら芋長のイモヨーカンで……って、イモヨーカンと高野豆腐を間違えて持ってきてしまったリーニー！」

「食らいやがれ！ブースターキャノン！」

「あっ、さっき襲ったどこかの会社の社長の家っばいところのお茶

菓子があつたリーニー！イモヨーカン！」

「ちくしょう！あともう少しのところで巨大化しやがって！V R V マシン！」

「本官も出動だ！サイレンダー！」

「おおつ、あれは！白くて四角くて！豆腐そのものだリーニー！サイレンダーにかぶりつくG Gリーニー。

「硬いリーニー！」

「サイレンバルカン！」

「バルカンの弾ごと豆腐にしてやるリーニー！」
光線を浴びて豆腐にされるサイレンダー。

「いただきますリーニー！」

「シグナルマン！」

「ま、まずいリーニー！気持ち悪いリーニー！」
サイレンダーから離れてくずおれるG Gリーニー。

「今だ！ビクトリーツイスター！」

「ロボットを豆腐にすると……オイルのにおいがするリーニー！」

絡み合っていた豆腐が、

「元に戻った……」

「良江ー！」

「あなたー！」

「どうしても駄目つてならともかく、つまらないことで離婚なんてするもんじゃないよな。」

「うむ、そうだな。一生を共にすると約束するほどだったはずなのだからな。」

（後書き）

完全な悪ノリ戦隊を悪ノリでノリにノッて書き上げてしまったものの、後半はノリ不足かもしれない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9405y/>

激走戦隊カーレンジャー 一億総離婚！？その届けにブレーキを！

2011年11月28日01時55分発行